



タイタニックの錨
16ト余



鉄のふしぎ? 博物館

58

『タイタニック』

衣川製鎖工業・衣川良介社長

チェーンが載った水中写真を見つけ、この映画をぜひ見たいと思いました。それは水深4000mの海に眠るタイタニックの現状をとらえた小型潜水艇からの写真です。映画の冒頭、潜水艇は船首前方から、どんどん近づきアンカーチェーンを写し出しました。短い時間でしたが、深海に沈んでいるチェーンの腐食はあまり進んでいないように思いました。

タイタニック号に乗り合わせた画家志望の魅力ある青年ジャックと上流階級の美しい娘ローズの恋を描いたラブロマンス。20年前のアメリカ映画(1997年)で、観客は若いカップルが多く、中年男(私)一人の客は皆無でした。



アンカー取付用の調整チェーン

この沈没事故は100年前、実際に起こった事故を元に描かれています。1912年(明治45年)4月10日、当時世界最大の豪華客船タイタニック号はニューヨークに向けて、英国サンクトン港を出港しました。乗客は1316人、乗組員891人、計2207人、出港後4日目の4月14日、ニューファウンドランドの北大西洋上に航行中、航路上に浮水がありそうだという通報を受け、6人の見張は暗夜の海上を交替で見張った。前方に何かを見た見張は「真正面に氷山がある」と船橋(ブリッジ)に連絡。船は、左に舵を取り氷山を避けようとし右舷を高速でかする形となり、約90度にわたり、外板や防水隔壁が破損した。

氷山との衝突から25分後、船長は救命ボートを下ろすように命じた。また、通信士はタイタニック号が史上最初となった、新しい遭難信号SOSを発信。衝突後2時間35分、船橋が海水をかぶり、船首が沈み始め、衝突後2時間40分、垂直になり沈没した。

船客全員を収容するだけの救命ボートがなく、ボートに乗れない人は1000人を越した。人々はマインス2・2度の海に投げ出された。午前8時30分、救助船カルパチア号はすべてのボートの乗組員を救助したが、1500名の人命が失われた。世界最大の海難事故といわれたタイタニック号の重大事故を契機として、英国や米国を中心として「海上における人命の安全のための国際条約」が検討されることになりました。

タイタニック号にはセントアンカーが1丁重量16ト余、2丁の予備錨の重量は、それぞれ8ト弱。アンカーチェーンは鍛鉄製で螺旋状鍛造、リンク直径は53/4インチ(146mm)です。末端リンクの直径は61/4インチ(約160mm)です。画像にはいかにも力持ちの、屈強な鍛冶屋が大きなハンマーを持って横に立っています。過去に製造例がない最大径のチェーンでアンカーと共にヒンクレイ&サンズ社(1820年創業)で作られました。

ちなみに、昭和10年代まで、このヒンクレイ社製のチェーン用鍛鉄が輸入されていました。私が仕事に就いた昭和43年(1968年)、ヒンクレイの鉄は餅みたいに良く着いたものだ」と、その鍛接性能の良さを古老の一人が教えてくれました。

【参考図書】
▽海百講 中谷三男
編著者 1996年、舵社R.M.S.T.I.T.A.N.I.C.

間違った記述は以下です。

リンク直径は5 3/4インチ(146φmm)
末端リンクの直径は6 1/4、約160φmmです。